

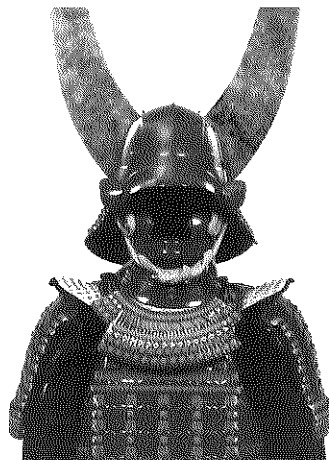
彦根城博物館だより

2009年
3月1日

84

Hikone Castle Museum News

編集・発行 彦根城博物館



シリーズ「直弼発見！」巻の6 井伊直弼の甲冑と刀剣

平成21年(2009年)3月13日(金)～4月14日(火) 展示室1

井伊家では、新たに藩主に就任すると所用の甲冑が作られ、指料が定められました。歴代の甲冑は、いずれも赤備えであることは同じですが、時代の好みを反映して、威しや立物などに少しずつ違いがあります。その中で直弼の甲冑は、2代直孝を強く意識したつくりとなっています。そして直弼が指料に選んだのは、刀が一竿子忠綱、脇指が長曾根虎徹でした。いずれも江戸時代の名工であり、虎徹は地鉄が緻密で切れ味鋭いことで評判でした。武門の象徴である甲冑と刀剣、そのスタイルや刀工の選択に、井伊家当主はこうあるべきだ、という直弼の思いが伝わってきます。

ギャラリートーク 3月14日(土)午後2時～ 学芸員 坪内広子

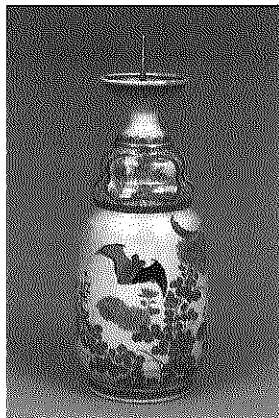
春 年に一度の特別公開

テーマ展 国宝・彦根屏風

平成21年(2009年)4月17日(金)
～5月19日(火)
展示室1

近世初期風俗画の傑作として高く評価されるこの屏風は、代々彦根藩主をつとめた井伊家に伝来したことから「彦根屏風」の名称で広く知られています。毛髪の本一本、絞り文様の一つ一つまでも表現した緻密な筆致、金地を背景とする洗練を極めた構図、江戸時代初期の一瞬を切り取ったかのような華やかな風俗、時代相を反映した静寂な空気など、多彩な魅力を堪能ください。

ギャラリートーク 4月18日(土)午後2時～ 学芸員 高木文恵



テーマ展 湖東焼絵付師 自然齋

平成21年(2009年)5月22日(金)～6月23日(火) 展示室1

彦根城下中山道鳥居本宿に住み、湖東焼制作に携わった自然齋。彼はほかの絵付師と株仲間を組織し、素地を仕入れて絵付けを行うという藩窯とは異なる体制で、さまざまな作品を世に送り出しました。幕末から明治にいたる幅広い作品と作陶の様子を物語る資料から、自然齋の活動を紹介します。

ギャラリートーク 5月23日(土)午後2時～ 学芸員 小井川理

井伊直弼の将軍家定評



徳川13代将軍家定は、歴代将軍の中でも特に政治的能力が疑問視され、歴史的評価は低く論じられることが多い人物です。癩癩が強く、病弱だったようで、29歳で将軍職に就くとまもなく、跡継ぎの養子を立てるよう話が出ます。

実際、成人してからも、お菓子を作るのが趣味だったようです。幕臣から井伊直弼に宛てられた書状には、家定は「吹上御殿でとれたさつまいもや唐茄子(かぼちゃ)を煮て、まんじゅうやカステラをこしらえておられる」という記述もあります。これを見る限り、政治家としてふさわしくないとと思われるも仕方ないようです。

しかし、このような人物像とは別の一面もあったことが、当時の記録からうかがえます。

安政5年(1858)4月23日、井伊直弼は大老に就任し、家定のもとで幕政の課題に取り組みます。就任にともなう手続きを済ませると、早速26日には家定に直面して政務の相談をしています。その後、5月6日・12日にも会談を重ね、懸案事項であった将軍跡継ぎ問題や、アメリカの要求する条約調印問題について方針を定めます。

直弼が政務を通じて、家定と直接対話する中で感じた人物評が残っています。

「上慮御伺い遊ばされ候所、天下の義深く御愁い御討論も御座候所、御賢明にて御仁憐の御方と仰せられ候」(直弼が家定の考えを伺ったところ、天下のことを深く愁い、御討論もなされ、家定のことを賢明で仁憐の方と思った)(写真、5行目から)

「此度の御役替に付いても、御老中方にも御心付これ無き義までも仰せ出され、御老中方にも舌を巻き、御恐伏なされ候よし」(今回の役替えについても、老中が気がつかない点まで家定が指摘し、老中が舌を巻いて感心して受け入れたということである)(写真、16行目から)

いずれも、直弼側近の宇津木景福が長野義言に宛てた書状の一節です。これらの文面から、直弼の眼には、家定は思慮深い明君と映ったことがわかります。主君に対するひいき目があるかもしれませんが、直弼が心を許す側近に漏らした実感であり、直弼の偽らざる本音であると考えべきでしょう。

さらに、この書状では、将軍家定は老中の気づかなかった「御役替」について指摘した、とあります。この役替えとは、直弼の大老就任を指すと考えられます。

直弼の大老就任は、周囲の目には突然の決定のように映りました。しかしその背景には次のような政治過程がありました。同年3月、老中堀田正睦が条約調印を天皇の勅許を得た上で進めようとし、みずから上洛して勅許を求めますが、孝明天皇はこれを拒否します。堀田は、江戸に戻って失策を家定に報告し、自身は退いて、政権の首班を福井藩主松平慶永とするよう進言します。ところが、家定は、「家柄と申し、人物と言ひ、掃部(直弼)を指置き、越前(慶永)へ申し付くべき訳これなく、早々掃部へ申し付くべき」と命じたと、直弼の大老政治を記録した「公用方秘録」に記されています。大老を輩出した家柄や直弼個人の力量からみて、直弼を大老にと決断したのは将軍家定だったのです。松平慶永の家柄は、徳川一門とはいへ、幕政にたずさわる家柄ではないことは家定自身が充分承知していたのです。

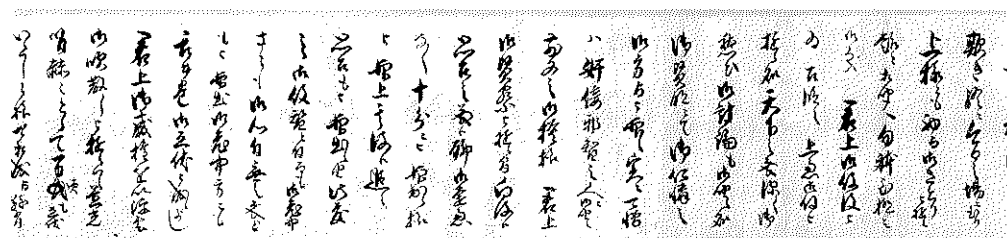
松平慶永を推す考えは、将軍継嗣問題と一体のものでした。慶永や水戸の徳川斉昭、薩摩の島津斉彬らは、斉昭の実子である一橋慶喜を家定の養子つまり次期将軍に推薦します。その理由は英明な将軍を立てて対外問題という難局に向かうということです。実際は権力争いの様相を呈していました。慶喜を推薦したのはそれまで幕政にたずさわっていない大名であり、慶喜が将軍となると彼らが幕政の中核に入ることができます。実際、「斉昭が将軍の実父となり幕政掌握することを狙っている」と周辺大名は漏らしていると、直弼は記しています。

彼らの主張を裏返せば、家定の将軍としての能力に疑問を投げかけていることとなります。しかし、歴代将軍を見ていると、老中・幕臣が進める政務に最終的な判断を下すのが職務であり、将軍自身に政治的リーダーシップは求められていません。さらに、彼らは本当に家定の人格を知っていたのでしょうか。将軍は江戸城の奥深くに暮らしており、直接に接してその素顔を知る者はわずかです。噂により人物像が増幅されたとしてもおかしくありません。

将軍家定は、子どものような振る舞いがあったのは確かでしょう。身体も弱く、早くから跡継ぎを決めておく必要があったのもその立場上、当然です。しかし将軍としての判断力の有無は別問題です。

政治抗争では、情報を意図的に操作するのは常套手段です。その中で、直弼が対話する中で実感した将軍評、これこそ家定を知る上で貴重な証言といえるでしょう。

(野田 浩子)



安政5年5月9日付
宇津木景福書状(部分)
彦根城博物館所蔵

和歌短冊「春あさみ」

(漢) 春あさみ野中の清水氷ゐて
(唐) (風) (北)
そこのころとくむ人ぞなき

安政4年(1857)2月2日、彦根城表御殿奥向の茶室、天光室において、藩士で直弼の茶の湯の弟子、宇津木幹之進が亭主となり、藩主直弼と世子の愛麿(後の14代直憲)に加え、3人の藩士を客とした茶会が開かれました。直弼43歳、愛麿10歳のことです。

この時、床の間を飾ったのが冒頭の句の掛物で、写真の短冊にも、同一の句が記されています。一春まだ浅く、清水が凍てついているように、私の考えはいまだ認めら

れていないー直弼が、自らの心情を詠んだものです。

この句は従来、安政の大獄後の安政6年(1859)、侍臣たちが大老職勇退を勧めた時に詠まれたものと言われてきましたが、近年、遅くともこの茶会までには詠まれていたことが明らかになりました。

となると、句にある「こころ」とは、政治向きのことだけでなく、世間の茶の湯に関する直弼の考えなど、解釈の可能性が広がってきます。

茶会では一般に、掛物をはじめ、道具類をじっくり拝見し、それについての説明がされます。参会者の視線がこの和歌に集中したとき、全員が直弼の「こころ」とひとつになったのではないのでしょうか。

本作品は、特集コーナー「直弼のこころ」(展示室5)にて、平成21年(2009年)2月4日～3月9日に展示します。

平成21年春からの教室・講座のお知らせ

はくぶつかんへ行こう

博物館で、日本の歴史や古美術、伝統を楽しく体験しませんか?小学生を対象として、展示資料の秘密や魅力に触れる教室を行います。

日時と内容:

- ①5月16日「彦根屏風のお話をつくろう」
- ②7月11日「昔ふうの手紙を書こう」
- ③9月12日「するする飾り結び・ちょきちょき紋切り」
- ④11月14日「直弼かるたで遊ぼう」

いずれも土曜日、10:00～12:00

対象と定員:小学生、各回30名(先着順)

場所:本館講堂・展示室

申込方法:往復ハガキ(1教室、1人につき1枚)の往信に、参加日・住所・氏名(学年)・ふりがな・電話番号と参加希望の教室の名前を、復信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。

申込・お問い合わせ先:

彦根城博物館「はくぶつかんへ行こう」係

古文書のみかた(初級)

古文書解読を基礎から学ぶ教室、「古文書のみかた(初級)」の平成21年度の受講者を募集します。

テーマ:「侍中由緒帳(彦根藩士の履歴書)を読む(2)」

開催日時:4月25日・5月16日・6月20日・7月18日
8月22日・9月19日(いずれも土曜日)
全6回、14:00～15:30

場所:本館講堂

定員:80名

(応募者が定員を超えた場合は抽選を行います)

資料代:500円

申込方法:往復ハガキ(1人1枚)の往信に住所・参加者氏名・電話番号を、返信宛名面に住所・氏名を明記の上、彦根城博物館「古文書のみかた(初級)」係までお申し込みください。

募集期間:平成21年3月1日(日)から同31日(火)
当日消印有効

入門講座「井伊直弼の基礎知識」

展示資料の楽しみ方を、2日間4講の集中講座で基礎から学ぶ「入門講座」。開国150年祭開催にちなみ、今年のテーマは“井伊直弼”。さまざまな資料が語る「直弼」を紹介します。

日時と内容:

- ①6月6日(土)13:30～14:40
「井伊直弼ってどんな人?」
- ②14:50～16:00「大老・直弼」
- ③6月7日(日)13:30～14:40「直弼と文芸」
- ④14:50～16:00「直弼と茶の湯」

講師:本館学芸員

場所:本館講堂

資料代:300円

※事前の申込みは不要です。当日会場にお越しください。ご希望の講座のみの受講も可能ですが、資料代は同額です。

平成21年度の支援スタッフを募集します

支援スタッフは、さまざまな人と触れあいながら、博物館をサポートしていく活動です。私たちと一緒に、博物館を盛り上げてみませんか?

- 活動内容**
- ①小学生対象体験教室「はくぶつかんへ行こう」のグループリーダー(体験メニューの指導・補助)
 - ②能・狂言公演の運営スタッフ(受付、会場案内、会場・駐車場整理など)

募集人員 ①②とも5名程度

募集方法 「支援スタッフ」係まで電話でご応募ください(0749-22-6100)。

募集期間 平成21年(2009年)3月27日(金)まで
支援スタッフとして活動される方は、4月以降に開催する研修(2回)を必ず受講していただきます。
※詳細については、電話でお問い合わせください。

スケジュール

3月	4月	5月	6月
<p>7日 古文書のみかた(中級)⑥</p> <p>14日 ギャラリートーク 「井伊直弼の甲冑と刀剣」</p>	<p>18日 ギャラリートーク 「国宝・彦根屏風」</p> <p>25日 古文書のみかた(初級)①</p>	<p>16日 はくぶつかんへ行こう① 「彦根屏風のお話をつくろう」</p> <p>16日 古文書のみかた(初級)②</p> <p>23日 ギャラリートーク 「湖東焼絵付師 自然齋」</p>	<p>6日 入門講座(①②)</p> <p>7日 入門講座(③④)</p> <p>14日 彦根城表御殿 水無月狂言の集い</p> <p>20日 古文書のみかた(初級)③</p> <p>27日 ギャラリートーク 「井伊直弼を支えた人々」</p>

シリーズ「直弼発見！」
巻の5
「弥千代の難と婚礼調度」
2/6 金～3/10 火

シリーズ「直弼発見！」
巻の6
「井伊直弼の甲冑と刀剣」
3/13 金～4/14 火

テーマ展
「国宝・彦根屏風」
4/17 金～5/19 火

テーマ展
「湖東焼絵付師 自然齋」
5/22 金～6/23 火

展示 “ほんもの”との出会い —井伊家伝来の名宝 80点あまりを展示—
◎特集コーナー「直弼のこころ」

※1ヵ月ごとに展示替えがあります

催し

初夏の夕べ、
伝統の笑いに興じる新たな公演が始まります—

彦根城表御殿 水無月狂言の集い

平成21年(2009年)6月14日(日)

午後6時30分開演

本館 能舞台

演目・出演

大蔵流狂言「二人大名」	茂山千五郎	ほか
独吟「京童」	茂山千作	ほか
大蔵流狂言「棒縛」	茂山千三郎	ほか
大蔵流狂言「梟」	茂山正邦	ほか

解説 茂山 正邦

5月14日(木)チケット発売開始 本館受付および電話予約にてお求めいただけます。

全席指定 A席(正面席) 3,500円

B席(脇正面席) 3,000円

発売初日は、窓口は9時、電話予約は10時から開始します。

※開演時刻・演目・出演者等は、都合により変更することがございますので、ご了承ください。

※未就学児童の入場はお断りいたします。

博物館友の会の会員になりませんか

彦根城博物館友の会では、平成21年度の新規会員を募集しています。博物館をより身近に感じることのできる友の会に入会して、歴史・文化との出会いを楽しみませんか？

【年会費】

個人会員	2,000円
個人会員(高校生)	1,000円
ジュニア会員(小中学生)	500円
賛助会員	1口以上(1口10,000円)

【特典】

- ・会員証で常設展、企画展が観覧できます。(賛助会員は会員証で10名まで観覧できます)
- ・友の会主催の講演会や見学会に参加できます。
- ・友の会ニュースや博物館案内等をお送りします。

※入会申込書は彦根城博物館にあります。

ご希望の方は郵送いたしますので、お問い合わせください。

【問い合わせ先】

彦根城博物館友の会事務局(彦根城博物館内)

TEL0749-22-6100 ※事務局は水曜日のみ